

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000247		
法人名	社会福祉法人 山輝会		
事業所名	グループホーム ブリランテ明石		
所在地	兵庫県明石市北王子町13-41		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成31年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の持てる力を活用し、笑顔で生活して頂けるように努めています。また、明石西公園が隣接されていることから散歩では公園の景色を楽しむことも大切にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事は普通の家と同じように材料の買い出しから入居者様と一緒に作り、一緒に作り、パートナーと一緒に食べています。 ・散歩や体操を日課として取り入れ、体力の向上、閉じこもりの防止に努めています。 ・日々の様子をブログで発信し、ご家族等に入居者様の表情を見て頂けるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、酒米の山田錦を産み出した県立農事試験場の広大な跡地に、母体法人の展開する高齢者総合福祉施設のなかに建っている。明石の地にしっかりと根を下ろした法人の下「お年寄りがいつまでも輝けるように」願い、ホテルで過ごす「お客様」ではなく健康で長く生活してほしい、共に暮らす「家族」として職員は利用者に寄り添っている。職場での挨拶は漫然と「お疲れ様」と呼び合うのはやめて、「おはよう」「こんにちは」と時間に応じた普通の感覚を大事にして、自分の子どもに誇れる仕事、親が受けてもいい介護を目指している。介護は特別な事ではなく、生活の延長線上であるという考え方が浸透している。開設して7年、木のぬくもりに包まれたリビングには、笑顔輝く利用者たちが集い、食事の終わった利用者も、たった今起きてきた利用者も、それぞれが自分のペースで過ごしている。利用者が輝ける利用者本位の暮らしを今後もずっと続けられる様に、支援して欲しい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パートナー(職員)が、理念を常に意識出来るよう、事業所内の目に付く場所に貼りだしている。また、法人内の事業計画にも落とし込み、理念の実現に向けて取り組んでいる。面談時にも理念を共有するようにしている。	全職員は入職時のオリエンテーションで法人理念と事業所の理念「お年寄りがいつまでも輝けるように」について学んでいる。「利用者が出来る役割を担うこと」「共に笑って過ごせるように」「行きたいところへ出かけられる体づくり」の3本柱を実現することが、グループホームで働く者の使命と考え、利用者が「輝ける人生の主人公」となって暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園での昼食会の参加や近隣のスーパーへの買い物や公園へ散歩に行くことで地域の方々とも顔見知りとなってきている。また、ボランティアの方に来て頂く事もある。	自治会には法人として加入しており、運営推進会議に自治会長が出席している。法人主催の夏祭りや餅つきには、地域のボランティアが手伝いに来訪したり、近隣幼稚園の食事会に招待されたり、近隣の小学生が和太鼓の演奏を披露してくれる等地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や地域の幼稚園の人権学習の講師として参加している。法人としてカフェやコミセンにてサロンを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの報告を行うとともに、委員より頂いた意見を定例会議で報告し、サービスに反映している。また、改善点については話し合うことでサービス向上に繋げるようにしている。	入居者と家族が任期2年の委員として出席しており、自治会長と民生委員、総合支援センターと居宅介護支援センターも出席している。議事録は参加者と家族に配布し、玄関に閲覧用に設置している。家族会は堅苦しいので作る必要がないと家族からの意見があり、行事の際に家族同士の交流が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点などがあれば、市の担当者に確認しながら進めている。地域のケアマネジャーとの連携をとるようにしている。	市には更新申請の事務手続き等で訪問することがあるが、普段は法人本部を軸として連携している。地域の事業所連絡会に参加しており、管理者等の情報交換の場となっている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は9時から18時は開錠しセンサーで出入りが確認出来るようにしている。 夜間は玄関の施錠をしている。	身体拘束適正化の指針を整備している。日中は玄関、ユニット入り口、階段は開錠しており、利用者は自由に出入りしている。最近、離設事例は無く、外に出たい利用者があれば、職員と一緒に散歩に出かける事になっている。昨年、主治医と家族の相談のうえで事例があり、常態化しない様に委員会で検討をし廃止することができた。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職者に対しては、法人として虐待防止に関する研修を行っている。年に1度、部署内研修でも行い不適切ケアについて話し合う機会を持っている。(10月)また、普段から面談を行いストレスについて吐き出せるようにしている。 ストレスチェックも行っている。	法人研修や職員が互いに講師を務める部署内研修で、虐待について学んでいる。「パートナーの心得」を配布して、接遇面や利用者、職員同士の関係について気持ちの統一を図っている。法人のストレスチェックシステムが機能している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行った。(8月9月)	部署内研修で学んでいる。利用者も数名あり、互いに研修の講師を務めるために職員は一定の知識は持っている。必要と思われる家族には、資料を渡し制度について紹介している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談時に契約書及び重要事項説明書、金銭にかかる同意書の説明を個別に行い、疑問点がなくなってから契約をしている。入居後に出た疑問点も、その都度、説明している。	面談をして看取りは出来ない事、出入りに施錠はしていない事等を説明して見学もしたうえで申込、契約となる。契約時には、疑問点が残らないよう丁寧に説明し、医師会と消防署の指示により、緊急受診依頼書に同意を求めており、心肺蘇生を試みない意向(DNAR)についての内容も含まれている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より頂いた意見は申し送りや会議の議題にあげるようにしている。またケアプラン更新時には家族と面談もしくはアンケートの記入を依頼している。	家族会はないが、家族からの意見や要望は行事やケアプラン更新時に吸い上げるよう配慮している。利用者に食欲が無い場合には、家族に利用者が好きな食べ物等を教えてもらい、出来るだけ食事が増すように検討している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議は事前に議題を配りその他の検討事項があればメモをもらい開催している。 日頃から現場の声を聞くようにしている。	年間で月ごとの企画の担当を決めており、事業所内の飾りつけや食レク外出レク等は担当職員が行っている。マグロの解体ショーや寿司屋やてんぷら屋の雰囲気を出した食事など、さまざまなアイデアが出され、利用者の楽しみとなっている。ケアの方法について職員それぞれが持っている情報を全員で共有できるように、会議内容には職員の意見が反映されるように配慮している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人として人事考課制度を導入し、個々のパートナーの日々の働きぶりや、目標に対する取り組みや結果を給与や賞与に反映している。 業務内容については会議での意見を取り入れるなどやりがいに繋がる事もある。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や内部研修を実施している。 学ぶ機会を頂き向上心に繋がっている。 新入職員に対しては中堅職員以上の者が帯同し現場を任せる事が出来るように指導している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市内のグループホーム部会に加入しており、責任者は定例会に出席している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの前に施設見学をして頂き、関係性を築くようにしている。また、申し込み後面接を1~2回実施している。 入居後は不安を訴えられる時はゆっくり話を聞く事ができている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの希望や要望は出来るだけ取り入れている。受診は基本的にご家族に任せられているが無理な場合は協力している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際には、その方の現状を聞き、法人内のサービスだけでなく、他法人のサービスも紹介している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に何かをするという姿勢で関わるようにしている。何気ない会話の中でもご本人の不安や心配なことを聞き出すようにしている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加できる行事を実施したり、2か月に1度、様子を伝える手紙をお送りしている。また、小さなことでもご家族に相談させて頂き、共にご本人を支えていく関係となるよう努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容院や病院に継続して通われている方もいる。	家族や昔の仕事仲間、教会のシスターも来訪して、利用者の楽しい時間となっている。年末のレクリエーションの際には、必ず年賀状を一枚は書いてもらっている。昔から行きつけの美容室に家族と通っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で過ごすことを好まれる方もいますが相性を考慮しながら入居者様同士が関わる事ができる様にパートナーが間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られても面会に行き交流している。同法人内の特養に移られたご家族と情報の共有もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりやカンファレンス等ではしっかりご本人主体で考えることが出来ている。その日に行いたい事もご本人と相談しながら行っている。	利用者の様子には気を配り、落ち着かない様子の時には想いを傾聴できるように支援している。職員間では申し送りやアセスメントシートで情報共有している。入所する前には自宅で出来なかった家事が、事業所で過ごすうちに出来るようになり、家族に喜ばれることもある。毎年、大衆演劇に通っている利用者もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族だけでなく、会いに来て下さるご友人からも昔の事をお聞きし、ケアする上でのヒントとしている。また、アセスメントシートも新たな情報を書き足し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	掃除、洗濯、調理、余暇活動をしなが得意な分野、出来にくい所を見極め日々の変化を注意深く観察し記録するように努めている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、パートナーの意見はプランに反映しているが、その他の関係者の意見までは取り入れられていない。ICFの考え方も取り入れながらプラン作成を行っている。	職員は2~3人の利用者の居室担当を務め、衣替えをしたり家族への手紙を書いている。担当者会議には居室担当職員、ケアマネ、計画作成担当者が出席して、利用者のサービス内容の達成状況を踏まえた介護計画を、ほぼ1年に一回作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システム(ちょうじゅ)を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や畑仕事など可能な限りニーズに合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだ少ないが、散歩や行きつけのスーパーでの顔見知りが出来てきている。その他、行きつけの理・美容院や病院に引き続き行かれていく方もおられる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力も得ながら、入居前からのかかりつけ医に引き続き診てもらっている。ただし、ご家族の状況によっては、往診の依頼や通院の支援も行っている。	毎月1度、協力医療機関による訪問診療があり、殆どの利用者がかかりつけ医にしているが、これまでのかかりつけ医を継続して受診している利用者もある。皮膚科と歯科の往診もある。かかりつけ薬局が薬を一包化し、薬剤情報を付けて届けてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パートナーがとらえた情報や気づきは受診に付き添われるご家族や往診の医師にお伝えしている。また、傷の処置などは法人内特養の看護師の協力を得ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との情報共有や協力病院である借生病院の地域医療連携室との関係作りを行っている。	毎年数件の入院が有るが、疾病によって入院先も入院期間も異なる。1週間入院した事例では責任者が見舞い、担当医を交えて情報交換して退院後のケアプランを策定した。入院中の居室確保可能期間は1か月であるが、状況に応じて柔軟に対応している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合に備えて、法人内に特養があり、お申込み頂けることはお伝えしている。また、看取り介護は実施しない方針を明確にしており、ご家族に対しても文書を使い説明している。	契約時に、医療的ケアと看取りを行わないという事業所の方針を説明し、利用者と家族の理解を得ている。緊急時に備え、医師会と消防署指定の書式に沿って、救急搬送及び心肺蘇生を試みない意向(DNAR)の確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行った。(10月) マニュアルを作成し設置している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を実施(2回/年)している。また、万一、火災などが発生した場合には同一敷地内の特養と協力する体制をとっている。地域住民へ訓練参加の呼びかけをしているが上手くないという意見がある。	年2回の避難訓練の内、1回は消防署が立ち合っており、終了後にアドバイスを貰っている。利用者も参加し、火災発生の場合は火元から遠いベランダへの水平避難を、水害の場合は2階へ垂直避難をしている。利用者が居室から避難済みかどうかや、利用者の身体状態を識別する方法が、敷地内の事業所間で統一されていない。	隣接する事業所との協力体制を密にする方法を工夫されたらどうであろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の内部研修を行った。(7月)	法人の「5S運動」や「職員心得」の中に、「接遇・相手を思いやる対応」や「自分が嫌な事は人にしません」を挙げて、ケアに活かしている。脱衣所と洗濯室が分かれており、利用者の入浴中に他の職員が不用意に入室する事はない。定期診療や往診の際には、リビングから離れたホールで一人ずつ診察している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やテレビの番組等、何事においても可能な限り入居者様に選択して頂くようにしている。また、イベントや入浴なども、無理強いせずご本人が「したい」と思う声かけを工夫したり、タイミングを見計らうよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝など一律に時間は決めず、お一人おひとりのペースで過ごして頂けるように支援している。昼夜逆転の方もいるが自然な生活スタイルとなるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りしている。 髭剃りや化粧水、乳液などには気をつけている。 介助が必要な方には服の好みを伺いながらお手伝いさせて頂くようにしている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物をメニューに取り入れ、一緒に楽しみながら食事準備を手伝って頂いている。	基本、毎日食材の買い物に出掛けており、職員と一緒に出掛ける利用者も多い。リビングに面したキッチンの前に5人ほどが座れるカウンターがあり、職員が寿司を握った風で並べたり、てんぷら屋の雰囲気を出して食事を楽しんでいる。ボードに献立を書く利用者もあり、皆が楽しみに食事の時間を待っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックしている。水分量は必要な方には個別にチェックし、飲みやすい物を提供するなど工夫している。また、毎月、体重測定を行っている。夜間の補水も水筒やコップにお茶を入れていつでも補水出来る環境としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の協力を得て、入居者様の口腔状態の把握、改善に取り組んでいる。日常の口腔ケアについては、全員に対して毎食後は実施出来ていない。(朝・夕は出来ている)		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた物を使っている。紙パンツとパッドから布パンツとパッドに変更できた方もいる。パッドを使用しながらも、全員がトイレでの排泄を行っている。排泄チェック表を利用しパターンを把握するようにしている。	使用しているのが布パンツとリハビリパンツの違いはあるが、全利用者がトイレで排泄している。職員が排泄チェック表を見ながら適時に誘導しているが、中には自分で尿意を感じて完全自立している利用者もある。極く少数であるが、夜間のみオムツを使用している利用者や、ポータブルトイレを置いている利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食べ物などを工夫しながら、自然排便に向けて取り組んでいる。便秘のひどい方には個別で乳製品を購入して頂き取り組みもしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、柔軟に対応しているものの、毎日入りたいなどの希望には添うことができていない。バイタルの加減で入浴できない事はあるが個別でじっくり関わりながら入浴して頂くようにしている。	一週間いつでも入浴することが可能であるが、利用者は平均して2～3日ごとに入浴しており、10時から16時の間、毎日2～3名、多い日は7名ほどの入浴介助をしている。利用者は、家族が買ってくれた好みのシャンプーや石鹸を使って、入浴を楽しんでいる。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状態に合わせて安心して休んでもらえるように声かけや寄り添うように関わらせて頂いている。夜間眠れない方には温かい飲み物を提供しながらゆっくり関わるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故を減らす為に内服薬は一包化している。薬情をタブレットにて管理、個人ファイルに挟むなど目に留まる機会を多くしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様を一律とせず個別対応をしている。好みの家事に参加出来る様に声かけをしたり余暇活動に参加して頂いている。個別で嗜好品を楽しまれている方もいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者と一緒に近くの公園まで散歩に出掛けたり、食材の買い出しに出かけている。また、外食や洋服の買い物、ドライブ、地域のイベントに参加したりしている。ご家族を交えてのイベントを行えている。(ホテルのランチバイキング等)	近くの緑地公園へと出掛けることが多く、往復約30分の散歩で桜などを観ながら季節を楽しんでいる。事業所の菜園で育てているトマト、キュウリ、ナス、サツマイモ、ゴーヤを観察しながら気分転換を図り、たまに一寸贅沢して、市内に旗揚げした大衆演劇へ出掛けたり、ホテルなどで外食している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は基本的に持ってもらっていない。必要な物は立替金にて購入してもらい毎月の請求時に請求している。ご本人で管理されている方はスーパー、コンビニや自動販売機などで買い物をされる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望があれば個別に対応している。また、パートナーが送っている2カ月に一度のご家族への手紙にご本人からの言葉を添えることもある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着き、安心して過ごせるよう、照明、音の大きさ、温度、湿度などに配慮している。また、地域の情報や施設内のイベントの様子を思い出せるコーナーを設け、季節に応じた飾り付けを行い良い刺激を感じられるようにしている。	事業所の設計段階から責任者も意見を出し、利用者にとっては過ごし易くて、職員にとっては使い勝手の良い空間となっている。リビングの向かい合ったレンガの壁や天井のシャンデリアなどのインテリアが、質の良い雰囲気を醸し出しており、利用者はその中でゆったりとした時間を過ごしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも個別の空間をいくつか設けるように工夫し、それぞれの方がその時々で自由に落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込む物について、危険物以外は制限は設けず、ご本人が安心できるものは、なんでも持ち込んで頂けるようにお伝えしている。結果、使い慣れた家具や小物を配置している方もおられる。	居室のドアの上に大きな飾りガラスがはめられているので、部屋の内外の明かりを感じる事が出来る。事業所からは、壁に埋め込んだクローゼット、空調機、ベッドとマットレス、洗面台、防災・遮光カーテンが準備されている。ベッドサイドのナースコールは、職員が携行しているPHSとも連動している。利用者は、家族からのお祝いの寄せ書き、一緒に撮った写真、テレビ、位牌などを並べ、安心して過ごせる空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、洗濯、掃除、畑作業等出来る事には参加して頂いている。 自由にベランダを歩けるようになっている。 見ればわかるように居室に表札をつけたりトイレやスイッチに表示をつけている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に隣接する事業所との協力体制を密にする方法を工夫する。	隣接する事業所と良い関係を築き、協力体制を密に出来る。	グループホーム部会で提案し協力体制を密に出来る方法を議論する。	12か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。